

1 単元名 「ひきざん(2)」

2 単元について

本単元では、(十何) - (1位数)で繰り下がりのあるひき算の計算の仕方について学習する。

児童はこれまでに(1位数) - (1位数)、(十何) - (1位数)、(十何) - (十)でいずれも20以下の繰り下がりのない減法について学習している。

ここで学習する繰り下がりの仕組みは、これからの減法の計算の基礎となる重要な内容であり、具体的な操作活動を通して計算の仕方を理解させ、計算の習熟を図ることが大切である。繰り下がりのあるひき算の計算の仕方には、主なものとして減加法と減減法がある。どちらで計算するかは、被減数と減数との関係によって異なるし、児童の実態にもよるが、最終的には減加法を用いて計算できるようにする。また、生活場面での適用題を解くことによって実生活とひき算の関連をとらえさせ、ひき算についての理解をいっそう深めることをねらっている。

単元を通して、問題文、数図ブロック操作、図、式の提示順序を工夫したり、問題場面を鮮明にする声かけをしたりすることによって、それらが子どもたちの中で結びつき、減加法や減減法の意味や計算の仕組みをとらえさせることができるようにしたい。計算方法としては、最終的には減加法にまとめるが、1つの方法に統一するのを急ぎすぎず、いくつかの場合について2つの考え方を比較したり、減数を一定にした問題を練習したりしながら、子どもたち自身がそのよさに気付くことができるように支援していきたい。

また、繰り下がりのあるひき算の習熟を図るために、ひき算カードを使って繰り返し練習したり、カードゲームを取り入れたりして、楽しく計算練習ができるようにしたい。

3 単元の目標

- (1) 関心・意欲・態度 …………… 繰り下がりのある計算に興味をもち、「10といくつ」という数のしくみのよさに気づき、進んで計算をしようとする。
- (2) 数学的な考え方 …………… (十何) - (1位数)で「10といくつ」という数のしくみを用いて計算することができる。
- (3) 表現・処理 …………… (十何) - (1位数)で、繰り下がりのある計算ができる。また、適用題を解くことができる。
- (4) 知識・理解 …………… 繰り下がりのある計算の仕方について理解する。

4 単元計画

- (1) 操作的活動による繰り下がりのあるひき算の算法の理解 …………… 1時間(本時)
- (2) 繰り下がりのあるひき算の算法の一般化と定着 …………… 1時間
- (3) 減数が6以上のひき算の練習と適用題 …………… 1時間
- (4) 減数が5以下のひき算の練習と適用題 …………… 1時間
- (5) カードを使った計算練習 …………… 5時間

5 本時の学習指導

(1) 本時の目標 (十何) - (1位数)で繰り下がりのあるひき算について、数図ブロックを操作したり、友だちと話し合ったりして、計算方法を見つけることができる。

(2) 学習指導過程

学習活動・意識の流れ	支援と留意点
<p>1 (13 - 9)の問題づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> かきが13こなっています。9ことるとなんこのこるでしょう。 今までのひき算とは違うぞ。 3から9は引けないよ。 答えが10より小さくなるよ。 <p>2 (13 - 9)の計算方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 13を10と3に並べよう。 10から9をひくと1残って、1と3を合わせると4になるよ。 3ひいて、6ひくと、4残ったよ。 <p>3 計算の仕方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めに、ばらばらのかきを10と3に並べると計算しやすいよ。 10から9を引いて、残った1と3を合わせると4になるよ。 ばらの3を引いて、残りの10から6を引くと4になるよ。 どの計算の仕方が簡単な。 <p>4 本時の学習を振り返り、問題(11 - 8)をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 引く方法が2つあったよ。 数図ブロックを使うとよく分かったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> (13 - 9)のカードを提示し、すぐに答えられないことから、既習の計算との違いに気付くようにする。 問題づくりのきっかけにするために、13個のかきの絵を提示する。 かきの絵を使って答えを求めて、数え引けば分かるという意識をもてるようにする。 数図ブロックを操作できる時間を十分にとる。 数図ブロックの操作の仕方を言葉で書けるように、予想される児童の操作活動を図示したワークシートを用意しておく。 数図ブロックを操作できない児童には、操作の手順を示したワークシートを用意しておき、操作の仕方を言葉で書くようにする。 数図ブロックを操作して、自分の考えを友だちに説明するようにする。 それぞれの計算の仕方について、考えの同じところや違うところを話し合うようにする。 手の動きを動作化して、計算の仕方についてイメージをもつことができるようにする。 <p>評 【考】「繰り下がりのあるひき算(13 - 9)について、数図ブロックを操作して、10からひく計算方法を見つけることができる。」</p> <p>B: 10といくつに着目し、数図ブロックを10のまとまりの方から操作することができる。</p> <p>A: 被減数を10といくつに分解して、10から引く計算方法が速く簡単にできることに気づき、それを友だちに話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数図ブロックを使って、簡単な計算の仕方です算するようにする。